

族

三年

画数 11
筆順
クソク

ウガガ族



成り立ち

「旗はたにおに旗はたがひるがえっている形かたちをあらわした「ウ」と「矢」とを組み合わせて作った字です。

いくさするときには、矢やが旗の下にたくさん「あつめられ」ます。矢やが足りなくなると、ここに取りにくるのです。それで、「旗の下はたのしたの矢や」という字で、「あつまる」といういみをあらわしました。

「あつまる」「あつまり」といういみの字ですが、今は「同じものあつまり」「なかま」のいみにつかわれています。

使い方

▽わたしの家族は、ぜんぶで六人です。おじいちゃん・おばあちゃん・おとうさん・おかあさん・おにいさん・それにわたしです。

▽春休みに、おじいちゃんに水族館スイゾウカンにつれて行ってもらいました。水族館スイゾウカンには、魚イサやいるかなど、水みづにすむどうぶつどうぶつたちがいます。ぼくが一ばんおもしろいと思おもったのは、魚イサのえづけです。アクアラングアクアラングをつけた人が、えさをまくと、魚イサがよって来て、さかんに食たべます。また、水族館スイゾウカンにあそびに行きたいと思います。

熟語例

- ▽家族カゾウ（同じ家いへにすんで、いっしょに生活セイカツしている、血ちのつながった人々ひとびと。親子おやこやきょうだいなど）
- ▽一族イチゾク（同じ血ちすじを引く人々ひとびと。「おひがんには、一族いちぞくがあつまって、おはかまいりをしたり、しばらくぶりて話をしたりします」などというふうには、つかいません。）
- ▽皇族コウゾク（天皇テウノウの一族。天皇テウノウをはじめ、皇后コウゴウ、皇太子コウタイシ、皇太子妃コウタイシヒといった人々ひとびと）
- ▽水族館スイゾウカン（水みづにすむなかま、魚イサやいるかなどを飼かつて人に見せる施設シヤクシ）

他

三年

画数 5
筆順
クソク

イヤ他

成り立ち



へびの形かたちをあらわした「也や」と、人の形かたちをあらわした「イ」とを組み合わせて作った字です。

「へびのような人」といういみで作られた字で、「きみのわるい人」といういみの字です。

「どんな人かまったく知らない人」といういみにつかわれます。また、「自分とまったくかんけいのない人」「よその人」といういみにつかわれます。

また、「人」にかんけいなく、たんに、「よそ」といういみにもつかわれるようになりました。

「也」のつく字は、すでに二年で、「池イデ（188）」、「地チ（187）」をならいました。もう一どたしかめてみましょう。

使い方

▽「他人タニの空似ソラニ」ということばがあります。これは、血ちのつながりがないのに、ふしぎによく似にている、という時ときにつかうことばです。「山本ヤマモトくんと西田ニシダくんは、よく似にているけれど、あれは他人タニの空似ソラニだ」などといえます。

▽おじいさんが、おきやくさんに、「きょうは、べつに用ヨウ事ジもありますので、いずれまた、他日タニお話しはなしましょう」といっていました。

熟語例

- ▽他人タニ（血ちのつながりや、かんけいのない人ひと。いみを強つよめる時ときには、「赤アカの他人タニ」などともいいます。）
- ▽他日タニ（ほかの日ひ。べつの日ひ。「他日タニ、また、お会いあいしましょう」などというふうには、つかいません。）
- ▽他国タコク（よその国くに。外国ガイコクとか、よその土地ちをさします。「ある時とき、他国タコクの見み知らぬ人ひとがあらわれた」などというふうには、つかいません。）
- ▽他聞タブン（他人タニが聞くこと。よその人ひとが聞きつけること。「これは、他聞タブンをはばかる話はなしだ」などというふうには、つかいません。）